２０１２年7月２０日

鹿児島県知事
伊藤　祐一郎　殿

日本共産党鹿児島県委員会
委員長　野元　徳英

垂直離着陸輸送機オスプレイ配備に関する申し入れ

日米両国政府は、墜落事故が相次ぐ米海兵隊の垂直離着陸輸送機ＭＶ２２オスプレイを、山口県の岩国基地に先行搬入したうえで、沖縄県の普天間基地に配備するという計画を進めている。

オスプレイは、開発段階から墜落事故を繰り返し、実戦配備が始まった２００５年以降も１０年にアフガニスタンで、今年に入って４月にアフリカ北部のモロッコで、６月には米国フロリダで墜落を重ね、今月９日には機体のトラブルで米国南部の民間飛行場に緊急着陸しており、いつどこで落ちるかわからない危険な欠陥機である。

普通のヘリは飛行中にエンジンが止まっても、機体の降下による空気の流れでプロペラを回し、浮力を得て着陸できるオートローテーション機能をもっているが、オスプレイにはその機能が欠けている。オスプレイの開発に携わったレックス・リボロ氏はオートローテーションについて「実証のための試みもされていない。危険すぎると考えられたからだ。」（１３日付「しんぶん赤旗」）と述べている。安全が実証されていないのに、オスプレイが「緩やかに降下する」（森本敏防衛相）とのうその説明で配備を強行するのは断じて許されない。

米政府は、１９日、オスプレイを２３日にも岩国基地に搬入する日程を非公式に日本側に伝えた。日米両政府は国民の反発を恐れ試験飛行は当座行わないとしているが、ほとぼりが冷めたら試験飛行に踏みきり、普天間基地に配備する計画である。

沖縄では県議会や県内４１市町村の議会と首長すべてが配備に反対し、８月５日に県民大会が開かれる。山口県でも県議会や岩国市議会と首長が搬入に反対し、２２日にも市民反対集会が開催される。米軍基地のある１４都道県からなる渉外知事会も地元の意志を尊重せよと政府に申し入れを行っている。さらに、昨日開催された全国知事会議でも、オスプレイについて「自治体や住民が懸念する安全性の確認ができていない現状では受け入れることができない」などとして普天間基地配備や国内での低空飛行訓練に反対する緊急決議を採択した。

本県においては、６月２２日に、九州防衛局が県当局に説明に訪れ、トカラ列島から奄美諸島での低空飛行訓練ルート「パープルルート」が掲載された米国資料が示されている。

「パープルルート」は、以前から、米兵の証言によりその存在が明らかになっていたが、このルートだけでなく、薩摩半島を中心に、これまでも米軍機の低空飛行が各地で目撃されており、住民は不安を募らせてきた。いつ墜落するかもわからない危険なオスプレイの低空飛行訓練が、住民生活に耐えがたい危険と不安をもたらすことは明白である。

よって、貴職が、県民の生命、財産を守る立場で、次の項目について対応されることを強く求めるものである。

記

１．危険なオスプレイの配備について、直ちに、反対の意志を表明すること。
２．政府に対して、米国政府にオスプレイ配備の中止を提起し、この危険な欠陥機の配備を許さない姿勢をとることを求めること。